

# 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 日時 令和7年12月○日(○) 第○校時

2 学年 第3学年○組

3 単元名 「やさしいっばい○○」【福祉】

## 4 単元について

### 目標

高齢者や障がいのある人にとっても安心・安全なまちにするために発信する活動を通して、福祉とは障がいの有無にかかわらず、お互いに支え合いながら、一人ひとりが幸せに生活することであることを理解し、○○の人が安心して生活ができる地域の実現に向けて、自分にできることを考え、地域の一員として積極的に関わろうとしている。

### 目指す児童の姿

- 福祉とは障がいの有無にかかわらず、お互いに支え合いながら、一人ひとりが幸せに生活することであることを理解し、高齢者や障害のある人の気持ちやまちの危険な環境についての調査活動を通して、自らの学びや発信が、共生や互助の意識の高まりにつながるということに気付いている。
- だれにとっても危険が少なく、お互いに支え合うことができる地域にするために、必要な情報を収集し、根拠に基づいて整理・分析し、目的や相手に応じた方法で効果的に発信している。
- 自分が地域の一員であるという意識をもち、障がいの有無にかかわらずすべての人が安心して生活できる地域の実現に向けて、自分にできることを考え、積極的に関わろうとしている。

### 現在の児童の姿

本学級の児童は、昨年度までの生活科の学習の中で、○○の魅力を探る学習を経験したことで、地域への愛着と関心が高まっている。11月のアンケートでは、「○○の町が好きですか」という問いには86%が肯定的に答え、「みんながやさしい」「安心できる」といった声が多く、地域を温かい場所として捉えていることが分かる。また、「○○をよりよくしたいですか」という問いにも90%が肯定的に答え、自分たちの町を大切に、よりよい地域にしたいという思いをもっている児童が多い。

学習面では、「総合の時間で目標や進め方を自分で決めて取り組んでいる」と回答した児童が82%と多く、課題に向かって友達と意見を出し合い、協力して活動を進めようとする姿が見られる。しかし、その一方で、どのように活動を進めればよいかかわからず、活動がストップしてしまう児童もいる。課題解決に向けた見通しをもてるように支援が必要である。

また、ICTを活用して調べたことや自分の考えを言葉だけでなく図や写真を使って、スライドで表現する力も育ってきている。しかし、話し合いの場面では、一方的な話し方になるなど、対話的なコミュニケーションにはなっていないこともある。話し合いがうまくいくこともあるため、ICTも効果的に活用しながら「話す・聞く」力を伸ばしていく必要がある。

福祉に関する理解は、まだ十分ではない。これまでの学習では、広島市吉島地域包括支援センターなどの協力を得て、高齢者や身体の不自由な人の疑似体験やお話を通して、その方々が感じている不便さや喜びについて知ることができた。生活面でも、児童は自分と他者は一人ひとり違う存在であることに気づき始めている。また、多くの障がいのある方から「みんなが助けてくれる」「困っている場面はあまりない」という話を聞いたことで、「地域みんながやさしい」「安心できる」という魅力を改めて感じている。

児童自身の生活を振り返ってみると、「地域のお年寄りや障がいのある人と出会ったときに自分から手助けをしたか」という問いに対し、62%の児童が「しなかった」と回答している。高齢者や障がいのある人が何に困っているのか、どのように声をかければよいのかが分からず、助きたい気持ちはあっても行動に結び付いていない現状が伺える。また、地域の道路や施設を観察する中で、児童は「段差」「見えにくい表

示「狭い歩道」など、高齢者や障がいのある人にとって危険な場所が存在することにも気づき始めている。

これらのことから、児童は地域への愛着をもち、よりよい地域づくりに関わろうとする思いをもっている。しかし、福祉の視点から地域を見る力や、困っている人に自ら関わっていこうとする具体的な行動力には課題が残る。本単元では、これまでの地域への関心を土台にしながら、福祉の視点を加えて地域を見直し、自分にできることを考えて行動につなげる力を育てたい。

## 単元の価値

〇〇学区は住宅街が立ち並び、吉島病院や広島市吉島地域包括支援センター、吉島福祉センターなど、乳幼児から高齢者まで多様な世代が集まり、交流できる地域資源が身近にそろっている。また、学区内の高齢者は全体の約3割を占めており、多くの高齢者が毎日の防犯パトロールや地域行事に積極的に参加するなど、児童が生活の中で自然と高齢者と関わる機会が多い地域である。このように、「多様な人が共に暮らし、支え合っている」という地域の特徴そのものが、福祉を学ぶ上で大きな学習環境となっている。

本単元の価値は、児童がこの地域の特性をふまえて、地域に暮らす多様な人々の姿に目を向け、身体の不自由な方や高齢者への理解を深めながら、地域社会の福祉を自分たちの課題として捉える力を育むことにある。児童は疑似体験や調査活動を通して、困っている人の立場に寄り添う視点をもつとともに、「自分たちにできることは何か」を考えることにつながる。

また、単元を通じた継続的な活動は、児童に「高齢者や身体の不自由な人が安心して幸せに生活できる町は、自分たち自身にとっても安心して生活できる町である」という気づきをもたらす。これにより、児童の視点は「福祉＝特別な人のため」から「福祉＝地域で共に生きるすべての人のため」へと広がっていく。加えて、「点字ブロック上に駐輪しない」「困っている人に声をかける」など、日常生活での具体的な行動変容へとつながることも期待できる。

このように本単元は、地域資源を実際に見て・関わって・発信するという学びのプロセスを通じて、支え合おうとする心を育て、地域と子どもがともによりよい社会をつくっていくための素地になる学習であると考えている。

## 働きかけ・環境設定

本単元の導入では、社会科での町探検を行い、町には多様な人たちが住んでいること、誰もが生活しやすい環境が整っているわけではないことに気付かせ、みんなが過ごしやすい町かどうかを考えるきっかけにした。

小単元1では、身体の不自由な人について調査をしたいという意見が出たため、教室での授業では、補助具や盲導犬などに関する情報を集め、発表し合う場を設定した。吉島地域包括支援センターなどの施設の協力のもと高齢者疑似体験、アイマスク体験、車いす体験、認知症サポーター養成講座など、多様な体験活動を通して、障がいに対する理解を深めることができた。インターネット、本、動画だけでなく、体験も情報収集の一つとして位置付け、「障がいは人ではなく環境にある」という考え方に触れるようにした。その経験を経て、障がいのある人、高齢者をともに支えていかないといけないという意識が芽生えたが、〇〇の町で過ごすにあたって、障害のある人よりも高齢者の方が町で出会うことが多いことから、対象を高齢者に移すことになった。

小単元2では、障がいについての学習を踏まえ、児童が高齢者の視点で町のバリアフリーを捉えられるように計画した。そのために、学区内を繰り返し歩き、障がいのある方についての学習で身に付けた視点を生かして、危険箇所を自ら発見したり、高齢者にインタビューしたりした。また、環境面の整備に焦点を当てて展開することで、設備を整えるだけでは高齢者の安心にはつながらないことに気付くように促す。そのため、整理・分析の段階では、環境には変えられる部分と変えられない部分があることが明らかになるように、情報の整理方法を工夫する。整理・分析した情報を基に、行政相談員の助言を得ながら行政や地域に向けて発信する機会を設けている。これにより、3年生であっても、自分たちの力で〇〇をより安心して幸せに生活できる町へ変えていけるかもしれないという自己効力感を高めながら学習を進めている。

小単元3は、行政や地域への発信後であるが、環境面の整備だけでは高齢者の安心や幸せが十分に満たされないことに気付くように、屋外で活動できる高齢者だけでなく、屋内で過ごす高齢者にも目を向けさせる。高齢者施設での交流を通して、高齢者の思いや願いに触れ、「心でつながること」の大切さに気付くことができるよう支援する。

発信活動においては、情報を集めたり、意見の交流や整理をしたりするだけでなく、成果物をまとめて、相手にとって分かりやすく発信することができるよう、ICTを効果的に活用し、意見を伝える表現方法の幅を広げられるようにしていきたい。

## つながる学び

校内研究「STEAM教育（Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics）との関連

### ○Technology（技術）

調査した内容を思考ツールで整理・分析するとともに、必要に応じて写真や動画を撮影したり、フォームを用いてアンケートを取ったりする。

### ○Engineering（工学的思考）

写真や動画、アンケート結果を、文章とどのように組み合わせるとより伝わるスライドになるのかを考え、試行錯誤しながら構成を工夫する。

### ○Arts（芸術）

高齢者のために直してほしい場所を行政に発信する際、写真・イラスト・文章・デザインの工夫を取り入れ、視覚的に分かりやすく伝わる表現を行う。

### ○Mathematics（数学）

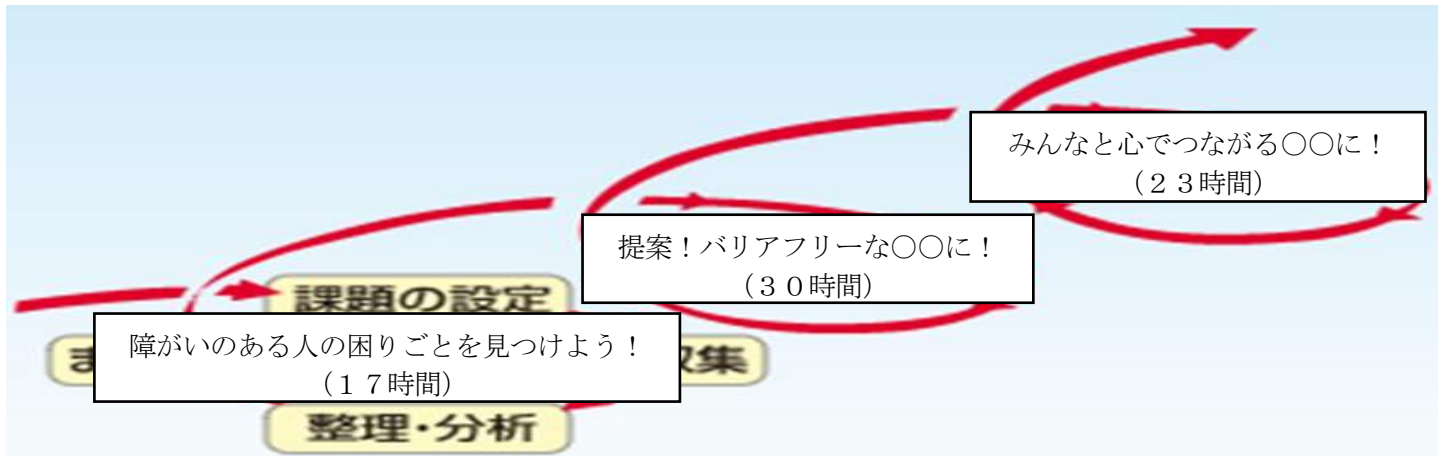
地域住民に危ない思いをしたかどうかの調査や整理をするにあたり、アンケート結果や調査データをグラフや表で可視化し、データに基づいた発信内容の根拠を明確にする。

5 単元の評価規準

| 知識・技能   | 思考力・判断力・表現力  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|--|--|
| <p>○ 福祉とは障がいの有無にかかわらず、お互いに支え合いながら、一人ひとりが幸せに生活することであることを理解し、高齢者や障害のある人の気持ちやまちの危険な環境についての調査活動を通して、自らの学びや発信が、共生や互助の意識の高まりにつながるということに気付いている。</p>  | <p>○ だれにとっても危険が少なく、お互いに支え合うことができる地域にするために、必要な情報を収集し、根拠に基づいて整理・分析し、目的や相手に応じた方法で効果的に発信している。</p>  | <p>○ 自分が地域の一員であるという意識をもち、障がいの有無にかかわらずすべての人が安心して生活できる地域の実現に向けて、自分にできることを考え、積極的に関わろうとしている。</p>   |
| <p>① 福祉とは障がいの有無にかかわらず、お互いに支え合いながら、一人ひとりが幸せに生活することであることを理解している。</p> <p>② 目的や相手に応じた適切な方法を選択し、調査活動を実施している。</p> <p>③ 自らの活動が共生や互助の意識の高まりにつながるという理解は、地域の課題を自ら発見し、改善策を考えたことの成果であることに気付いている。</p>  | <p>① 高齢者にとって十分に安心できない場所があることや高齢者の思いに目を向け、自分たちにできることは何かを考え、課題を設定している。</p> <p>② 課題解決に向けた現状把握のため、目的に応じて調査や地域住民へのインタビューやアンケートなど、必要な情報を意図的に集めている。</p> <p>③ 課題の解決に必要な情報を取捨選択し、比較・関連付けながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④ ○○の現状と課題解決策を、写真を使って効果的に表し、プレゼンテーションソフトなどを活用し、自分の伝えたいことを根拠を明確にして伝えている。</p> | <p>① 課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>② ○○の人たちが幸せに暮らせる町を目指した探究的な活動体験を通して、自他のよさを活かしながら協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 地域の未来を見据え、福祉の充実に向けて、自分にできることを考え、社会の一員として地域の取組や課題解決に積極的に関わろうとしている。</p> |
| <p><b>出会う学びの財・環境（ひと・もの・こと）</b></p>  |  |  |
| <p>広島市中区社会福祉協議会 松岡拓哉様 ・ 社会福祉法人もみじ福祉会 井上一成様<br/>         一般社団法人広島県介護福祉会 ・ 広島市吉島地域包括支援センター 李慶華様<br/>         社会福祉法人福祉広医会悠々タウン 福光直美様 ・ 広島市認知症地域支援推進員 木元鮎美様<br/>         総務省行政相談委員 秦貴美様 ・ 檜皮浩二様<br/>         中区役所地域おこし課 ・ 老人会 ・ エルモ○○ ・ ○○学区の住民</p> |  |  |

6 指導と評価の計画（全70時間）

探究の過程の構想



|        | 小単元1<br>障がいのある人の困りごとを見つけよう！<br><障がいとは何なのか。>                        | 小単元2<br>提案！バリアフリーな〇〇に！<br><高齢者の人の「こわい」を減らし、〇〇を「安心」にするには>   | 小単元3<br>みんなと心でつながる〇〇に！<br><人の心とつながるためには>  |
|--------|--|--|---|
| 課題の設定  | 〇〇の町にはどのような人たちが共に暮らしているのか、どのような環境が整っているのかを知るために、課題を設定する。<br>(2時間)  | 〇〇学区には高齢者が多いことを踏まえ、日常生活で危ない思いをしている高齢者が、どのような場面で困っているのかに気付く。そして、その危険を取り除くために自分たちに何ができるかを課題として設定する。<br>(2時間) (思①・主①) | 環境のバリアフリーを進めるだけでは、まだ安心して生活できる〇〇になっていないことに気付く。そのうえで、高齢者に安心感をもってもらうために、周りの人のどのような関わりが必要かという課題を設定する。(3時間)<br>(思①・主③) |
| 情報の収集  | アイマスク体験、車いす体験などのさまざまな体験活動を行ったり、障がいに関することについて調べたりする。<br>(10時間)      | 高齢者にとって危険だと思う場所を〇〇から減らすために、地域の人へのインタビューや、実際の現地調査を通して情報を集める。<br>(15時間) (思②)   | 高齢者や障がいのある方にとって、安心できる言葉かけや行動はどのようなものかについて、情報を収集する。<br>(10時間) (知②・思②)  |
| 整理・分析  | さまざまな体験活動や調べた結果をもとに、高齢者や身体の不自由な人が日常生活を送るうえで困っていることを整理する。(2時間)      | 調べた結果をもとに情報を分類し、高齢者にとって危ない場所の共通点や特徴を見付ける。(5時間) (思③)  | 誰もが安心して支え合う町にするために必要な言葉や行動を分類し、共通点や特徴を整理する。(4時間) (知①・思③)  |
| まとめ・表現 | さまざまな体験活動から分かったことや調べたこと等をもとに、高齢者や身体の不自由な人の困りごとをまとめ、発表し合う。<br>(3時間) | 高齢者が安心して生活できる〇〇にするために、どの場所の何が危険なのか、どう改善してほしいのかをマップやスライドにまとめ、地域の人や行政に向けて提案する。<br>(6/8時間) (主②)                       | 高齢者や障がいのある方にとって安心できる〇〇にするために、自分たちにできる言葉かけや行動についてまとめ、地域に向けて提案する。<br>(6時間) (知③・思④)                                  |

※黒枠:本時 黄色:単元の山場

## 7 本時の目標

高齢者にとって危険な場所をまとめたスライドが、目的に合っているかどうかを評価し、改善点を見付けることができる。【思考・判断・表現④】

## 8 本時の学習展開

| 学習活動   | 働きかけ（目指す児童の姿のために）  |
|--|--|
| <p>1 活動の目的を確認し、本時の活動の見通しをもつ。（3分）</p> <div data-bbox="288 539 1286 613" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>スライドを見ながら、高れい者が安心できるために大事なことを考えよう。</p> </div>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的を確認することで、何のためにスライドを作成したのかを振り返る。</li> <li>○ スライドを評価する目的は、作った内容を振り返り、もっと相手に伝わるように工夫していくためであることを伝える。</li> </ul>  |
| <p>2 行政相談委員会の方に伝えて直してもらおうという視点で、各グループのスライドを評価する。（15分）</p> <div data-bbox="156 792 312 936"> </div> <div data-bbox="347 792 810 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>階段も坂も、高齢者の人はつまずきそうになるからこわいんだね。この場所は直せそうだね</p> </div> <div data-bbox="156 972 379 1196" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>坂道はこんなにこけた人の数が多いんだね。でも、ここは直せないよ。</p> </div> <div data-bbox="405 927 810 1196" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>道路標示が消えかかっていることは、高齢者の「こわい」に直接関係ないけど、車にひかれそうになるから危険だね。確かに、高齢者はすぐよけるのはむずかしいね。すぐ直してもらいたいな。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 横軸「すぐ直せる」「すぐ直せない」、縦軸「すごくピンチ」「あまりピンチではない」という座標軸を使って、各班の提案を評価するようにする。</li> <li>○ 集計機能で、児童の考えの分布がわかるようにする。</li> </ul>                                      |
| <p>3 グループごとに評価した理由を話し合い、「すぐ直せない」「すごくピンチ」なところについてどうしていくか考える。（10分）</p> <div data-bbox="172 1397 312 1554"> </div> <div data-bbox="347 1375 810 1554" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どこのグループも、高齢者にとってはすごくピンチなことだったね。でも直すことができない場所もあるよね。</p> </div> <div data-bbox="156 1599 405 1823" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>そうか！高齢者に伝えていくといいのかもしれない。危険を知らせるとかな。</p> </div> <div data-bbox="405 1599 810 1800" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>行政相談員にお願いはできないかもしれないけど、僕たちが危ないことを伝えることはできるかもしれない。</p> </div>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「すぐ直せない」「すごくピンチ」の層の項目について、「直せないからこの提案は仕方がない」とあきらめるような演技をすることで、子供たちの反対意見を引き出す。</li> <li>○ 出てこない場合、行政相談員ではなく、他の人に伝えることはできないかと、視点を切り替えられるようにする。</li> </ul> |

4 高齢者が安心して生活することができるように、大事なことを考える。(5分)



これ全部直したら本当に安心できる町になるのかな？

今より安心はできると思います。手すりがついたら絶対楽になると思います。

困っているときは助け合うことが大切だと思います。だから危ない場所で声をかけていきたい。

でも荷物を持っているおばあちゃんもいるよね。手すりがついてもこけることはなくなるのではないかな。

○ 1か所の危険な場所を直すだけで、本当に高齢者が安心して生活できる町になるのか考えさせるようにする。

○ 環境が整っても「助け合う」「支え合う」ということが不可欠であることに気付けるように、具体的な事例を出ながら、引き出すようにする。

6 振り返りを書く。(5分)

これまでは自分のグループがたんとうしている直してほしい場所だけのことを考えていたけれど、高れい者にとってはつまづく場所すべてがあぶなくて、こわい場所なのだと気づいた。だから、高れい者に安心してもらうために、スライドで直してほしいところのしゅうりをおねがいするいいにも、学校帰りに「下にだんさがあるので注意してください。」など、高れい者の人に声かけをしていきたい。

## 8-1 板書計画

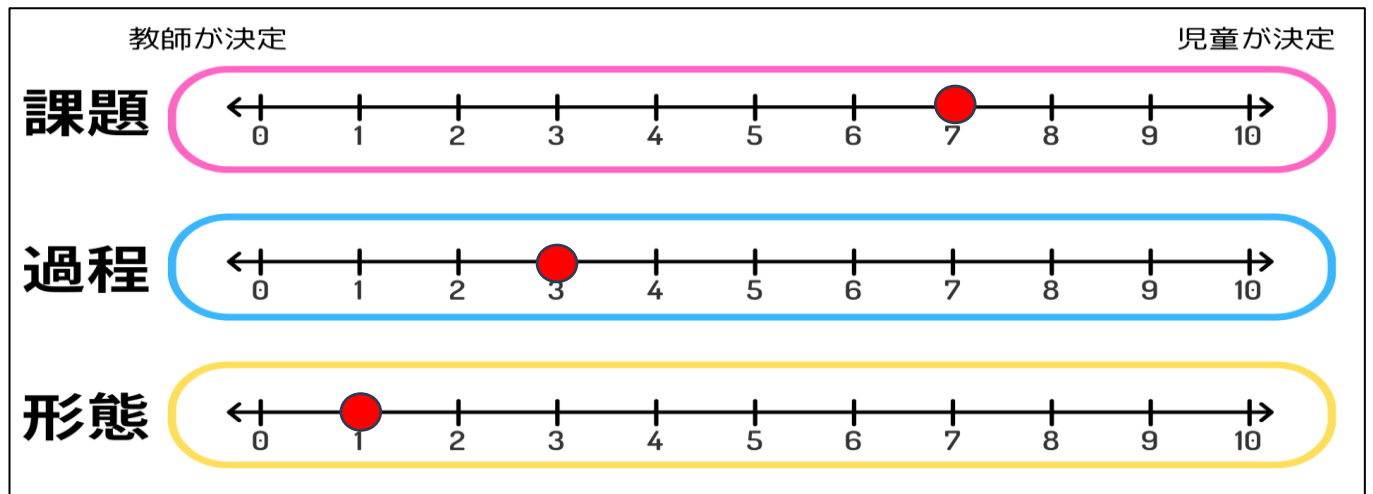
**めあて** スライドを見ながら、高れい者が安心して生活するために大切なことを考えよう。

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>目てき<br/>高れい者の「こわい」をなくし、安心して生活できるようにする</p>                 | <p>すぐ直せる</p> <p>道ろひょうじ<br/>横だんほ道</p>      | <p>すぐ直せない</p> <p>坂道<br/>交さ点のしんごう</p>     |
| <p>かだいのせってい<br/>じょうほうのしゅうしゅう<br/>せいり・ぶんせき<br/>○まとめ・ひょうげん</p> | <p>すぐピンチ</p> <p>まあまあピンチ</p> <p>点字ブロック</p> | <p>直せないけど、声をかける・手伝う</p> <p>思いやり・支え合い</p> |

## 9 本時の評価規準と目指す児童の姿

| 本時の評価規準  | 目指す児童の姿   |
|--|---|
| <p>【思考・判断・表現④】<br/>高齢者にとって危険な場所をまとめたスライドが、目的に合っているかどうかを評価し、改善点を見付けている。</p> | <p>○行政相談委員の方の直してもらうように依頼するだけでなく、自分たちのスライド作成の目的を見つめ直し、高齢者の安心のために自分たちができていることを考えている。</p> <p>A 評価：B 評価に加えて、行政に頼る点と自分たちで工夫できる点を区別して改善を考えている。<br/>→スライドを作るときは行政相談員さんをお願いできると思っていたけど、直せないところもある。次の時間からは、直してほしいところを伝えるだけでなく、高齢者の人たちが安心してくらせるようにするために、「ここがあぶないですよ。足元をよく見てください。」と呼びかけることもしていきたい。</p> <p>B 評価：目的に照らしてスライドを評価し、どこを直すとよく伝わるか改善点を見つけようとしている。<br/>→今直してもらおうとしている坂道以外にも、こわい場所はたくさんあるのだと分かった。今日はスライドに載せる情報が本当に安心につながるのかを考えることができた。次の時間からは、高齢者がどうすれば他の坂道を通る時にも安心して通れるようになるか考えていきたい。</p> <p>C 評価：スライド作成の目的に関係なく、提案だけを考えている。<br/>→すべてのきけんな場所を直してもらえばよいと思った。次の時間からは坂道をゆるやかにしてもらえるようにもっとスライドを作る。</p> |

## 10 教師の介入レベル



※学習課題、学習過程、学習形態について教師が児童にどのくらい委ねるかを数値化しています。

計画と実際を比べてどうだったか。また、どのくらい介入するべきか。など、参観する際の指標にするために記載しています。

## 11 本時の見どころ

- 座標軸の活用により、直せるところと直せないところを分け、行政相談委員に伝えるだけでは課題を解決できないことに気付かせる場面。
- 1か所の危険な場所を直すだけで、本当に高齢者の人は安心して暮らすことができるのかを考え、自分たちにできていることを考えている姿。